



はこべら

みんなのために



五月晴れの青空の下、時津東小学校運動会が盛大に開催されました！今年のテーマは「one for all, all for one」。一人はみんなのために、みんなは一人のために。」。

例年とは異なり、ダンス等の種目は行わず、走運動や力試しの運動に絞った内容となりました。その代わりに、子供たちの表現の場として「応援合戦」を完全復活させました。約三週間かけて練習を重ねた応援合戦は、まさに圧巻！遠足が校内遠足になった日に体育館で結団式を行い、応援団や六年生をリーダーに、全校児童が一つになって練習に励みました。そして迎えた本番、どの色も力強く、息の合った応援を披露し、会場全体を熱気に包み込みました。特に、低学年の元気な声と一生懸命な姿は、見ている私たちにも感動を与えてくれました。今年の運動会では、まさにテーマ通り、「自分のためではなく、学級、学年、全校のために力を尽くす」子供たちの姿が溢れていました。一生懸命頑張る姿は、本当にカッコよかったです。そして、素晴らしいリーダーに成長した六年生を中心に、時津東小学校がますます素敵な学校になっていくことを確信しました。

運動会を通して、子供たちが大きく成長したことを実感できた一日となりました。今後、この経験を活かして、様々なことに挑戦し、心身ともに成長していく子供たちを応援していきたいと思えます。

東っ子みんなでレベルアップ！

今年度、保護者の皆様と力を合わせて取り組みたいことがあります。それは、「あいさつ」と「はきもの並べ」の習慣化です。東小学校では、これまで「響かせよう 響き合おう」を合言葉に、「声が出る子供」をめざし、「あいさつ」「返事」「発表」に取り組んできました。「元気なあいさつ」は年々定着しつつありますが、さらなるレベルアップには、皆様のお力が必要です。そこで、まずお願いしたいのが、家庭での「あいさつ」です。昨年度もお願いしましたが、家族全員で「当たり前前前前」を意識して取り組んでください。「おはよう」や「おやすみなさい」「いってきます」「ただいま」などのあいさつを家庭の前前前にしましょう。子どもに強制するのはなく、大人自身が率先してあいさつをし、声をかけることが大切です。

そしてもう一つが、玄関の「はきもの並べ」です。「はきもの並べ」は二、三秒の気遣いであり、習慣になれば難しいものではありません。しかも、やった、やっていないがしっかりと目に見えます。しっかりと評価し、褒めたり、やり直しをさせたりすることができそうです。継続して声掛けをすることで、必ず身に付く習慣です。

学校評価における「あいさつ」と「はきもの並べ」の評価は、「二〇二〇年2・9と2・5で横ばい状態です。これは、学校全体、そして家庭全体での課題と言えます。

「できている」「大体できている」と回答できるご家庭を増やし、「この壁を乗り越えましょう。子どもたちが「あいさつ」と「はきもの並べ」を通して、良い習慣を身に付けられるよう、ご協力をお願いいたします。

すてきな先輩のようになろう！東っ子

先日、町の「子褒めポスト」にすてきな投稿があったことを聞きましたので、ご紹介します。

視覚障害の方がバスに乗る際に自ら声をかけて、一緒にバスに乗っている男子学生がいました。高校生でしたが、浜田から友達と乗車していたので、時津町で育った子だと思い投稿しました。私はバスには数カ月に一回乗るのですが、その際にはいつも視覚障害の方が乗車されますが、その学生以外にも声をかけて一緒に乗車する方が必ずいます。私は二年ほど前に引越してきましたが、いい町だなーと思うばかりです。

私はこの高校生は東小の卒業生ではないのかなと勝手に想像し、うれしく思いました。本校は、以前から県立盲学校の子供たちと交流をしており、コロナ禍での中断はありましたが、今でも続いています。きっと、その経験や学びが心を育て、高校生となった今でも行動として表れているのではないかと、期待を込めて思っています。

今の東っ子も様々な人と関わりながら、先輩たちのように、優しく、そして相手の気持ちや想像して行動できるように育ってほしいことを願っています。そして、将来、優しく、温かな時津町を支える一員になってもらいたいと願っています。

特別支援教育だより

めぼえ

～特別支援教育が特別ではなくなる日を目指して～

令和6年5月31日
時津町立時津東小学校
特別支援教育コーディネーター
文責 若杉 聡
第1号

特別支援教育って何？

「特別支援教育」とは学校の生活や毎日の勉強で困っている子ども（障害の有無に関わらず）に対して、その子どもに合った適切な指導・支援を行うことで、必要な力を高める教育のことです。また、その子の価値を高める教育ともいえます。

今から17年前の平成19年、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられました。この年は特別支援教育元年と呼ばれ、全ての学校における支援をさらに充実していくこととなりました。2022年の文部科学省によると、小・中学校の通常学級におよそ8.8%、11人に一人程度、「勉強がわからない」「友達となかなかうまくいかない」「ルールが守れない」など、学習や生活面で、支援が必要と思われる児童・生徒が在籍していることが分かりました。

本校では、校内支援委員会を中心に全職員で支援を進めていく体制を取っています。具体的には、児童のことで気になることがあったら、担任や職員、保護者の要請を受けて校長・教頭・担任・特別支援教育コーディネーター等が集まり、必要な支援を話し合ったり、必要なときは外部機関とも連携したりしながら協議していきます。お子さんのことで気になることがあれば、上記の担当者に限らず、相談しやすい職員にご相談ください。

特別支援NEWS

～スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーについて～

今年度も毎週水曜日の午前中（9:30～12:00）に『スクールカウンセラー』が来校することとなりました。スクールカウンセラーは、専門的な知識・経験をもって、児童が抱える心の問題に適切に対応するためカウンセリングなどの支援を行います。また、必要ならば保護者、教職員にもアドバイスや支援を行います。

またこの他に、時津町には、『スクールソーシャルワーカー』が、不定期ですが週に2～3回の頻度で配置されています。こちらは、児童生徒に影響を及ぼしている家庭・学校・地域環境の改善に向けて、学校・家庭・地域の支援ネットワークを築く福祉の専門家です。相談されたいことがありましたら担任、コーディネーターに連絡ください。

よろしくお願ひします

本年度も指導教諭として本校に勤務します若杉 聡です。特別支援教育コーディネーターも兼務いたします。お子さんのことで気になることがあれば、校長、教頭、担任、コーディネーターなど相談しやすい職員にご相談ください。

